

グッとくる山陰

2016 Spring 春

ご自由にお持ち帰りください

山陰で受け継がれ発展する

手しごとと礼讃

出かけたくなる季節だから

山陰へ—
春を探しに

このツアー
好奇心を刺激する



大山を望む春の風景

中国地方の最高峰、標高1709mの大山(だいせん)は、別名を「伯耆富士」。西側のなだらかな山容が、富士山の姿に似ているところから、親しみをこめてそう呼ばれています。JR岡山駅～出雲市駅間を走る伯備線「特急やくも」の車窓から大山が見えると、自然にうれしい気持ちになれる、雄大でやさしいふるさとの風景です。

「松江ゴーストツアー」 小泉八雲の怪談の世界へようこそ

ラフカディオ・ハーンは、英語教師として松江市に赴任、松江の風物や人情をとても気に入り、武家の娘・小泉セツと結婚。帰化して小泉八雲と名乗りました。そんな小泉八雲といえは、やはり怪談、「耳無し芳二」や「ろくろ首」、「雪女」などが有名です。

『松江ゴーストツアー』は、小泉八雲の怪談を体感するツアー。巡る場所は、松江城のギリギリ井戸

「崩れる石垣」、月照寺「人食い大亀」、清光院「消えぬ芸者の足跡」、大雄寺「子育て幽霊話」のコース。どの怪談も、セツから聞いた松江に伝わる昔話が題材となっています。

出発は、ほぼ毎週土曜日。集合時間は、日没時刻の10分前。地元の話り部が、小泉八雲の怪談の世界へとお連れします。



このツアー 好奇心を刺激する

●松江ゴーストツアー

問い合わせ先/NPO法人松江ツアーリズム研究会
島根県松江市殿町428
電話/0859-235470

●境漁港見学ツアー

鳥取県境港市昭和町9-33
アクセス/JR境港駅下車、車で約7分
問い合わせ先/社団法人境港水産振興協会
電話/0859-446668

Guttokuru-Sanin

「境漁港見学ツアー」 ド迫力の水揚げシーンに大興奮

国内屈指の境漁港で練り広げられる、ダイナミックな水揚げ風景から、威勢の良いセリや入札場の見学ができる貴重なツアー。まずは流通会館の2階で、境漁港の概要を学習。境漁港は、法令で定められた特定第3種漁港。全国に13港しかない重要な漁港のひとつなんだそう。ツアー参加者のために用意された全長258cmのマグロのレプリカもなかなかの迫力です。

いよいよ現場に向かうと、漁師さんや仲買人さんたちの真剣なかけひきに場内の空気は張りつめています。見学ツアーのルール厳守で、邪魔をしないよう行動することが肝心です。

6月・7月が本マグロの水揚げシーズン。大型漁船から水揚げされるそのド迫力、境港に来たらぜひ体験したいツアーです。



グッとくる山陰 春号

発行元/JR西日本米子支社 鳥取県米子市弥生町2
☎0859-32-0255 *記載の情報は、2016年3月1日時点のものです。



山陰の隠れたお宝情報が満載!!

山陰いいもの 検索 右記QRコードからサイトへGO!



山陰で受け継がれ発展する

手しごとと礼讃

毎日の暮らしの中で、ただ必要だった日用品。

地元の材料を使って、地元の職人がひとつひとつ手づくりする、地元の風土に根付いた、

地元色豊かな手しごとの品々、それが今でいう伝統工芸であり、民藝であり。

明治末期から昭和初期にかけて鉄道網の整備が進み、全国津々浦々、人と物と情報が運ばれて、

日本の文化が徐々に二様化されていった時代。

国内では、一般の民衆が日々生活に必要とする品こそ美しいとする民藝運動が、

大正末期より活発になっていました。

ここ山陰は、山がそびえ、海に沿い、川が流れて、春夏秋冬が律儀に訪れる場所。

鉄道網でいえば、新幹線の通らない少し出遅れた地方と思われるが、

だからでしょうか、二様ではない山陰らしい手しごとが生まれて育ち、

絶えることなく受け継がれて、そして、さらに発展しています。

全国的にも注目される山陰の手しごとの魅力、

その一端を追ってみたいと思いました。

民藝運動を機に復活

鳥取の手しごと

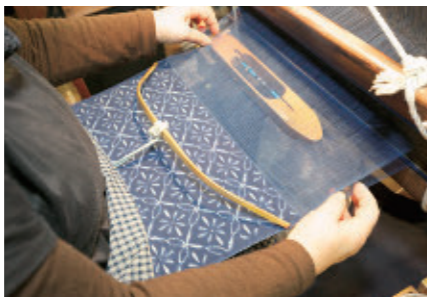
砂丘と大山、松葉ガニと二十世紀梨、これが鳥取に対する大方のイメージでしょう。けれど、和紙、緋、石灯笼、陶磁器、織物・染物、郷土玩具、竹細工、木工など、さまざまな手しごとが受け継がれているのも鳥取です。最も古いとされる因州和紙の起源は奈良時代、正倉院文書の中に、因幡の国で漉かれたと推測される和紙が保存さ

れていると伝わっています。

鳥取の手しごとを語るとき、忘れてならないのは、医師で新作民藝のプロデューサーであった吉田璋也（1898・1972）のこと。

日本を代表する思想家であった柳宗悦（1889・1961）が「民藝運動の父」ならば、璋也は「新作民藝の母」と呼ばれる存在です。

新潟医学専門学校を経て、京都帝国大学より医学博士号を受けた3年後の昭和5年（1930）、璋也は故郷の鳥取に帰郷し、翌年、吉田医院を開業。かねて、交流のあった宗悦の民藝運動に傾倒していた璋也は、鳥取市河原町の牛ノ戸焼と出会って、鳥取の手しごとに光を見出しました。こうして、璋也プロデュースで生まれたのが、黒と緑の染め分け皿。日本で最初の新作民藝窯の誕生でした。さら



●弓浜緋「鶴亀図／嶋田悦子さん作」
江戸前期より農家の婦人たちが家族のために織っていた弓浜緋。化学繊維の発達で一時衰退したが、民藝運動を機に復活。若い職人たちが育っている。

●嶋田悦子さん
弓浜緋の復興・再興・後進の育成に尽力。鳥取県指定無形文化財保持者。
[弓浜がすり伝承館]
鳥取県境港市麦垣町86
アクセス／JR境線・中浜駅より徒歩約10分
電話／0859-45-0926



●鳥取民芸木工「丸形スタンド」
鳥取民芸木工は、吉田璋也の指導を受けて誕生した工房。現在、2代目が民藝の心と卓越した技を真摯に継承。無垢材と本漆で仕上げる誠実な製品が評判。

[鳥取民芸木工]
鳥取県倉吉市黒見407-1 アクセス／JR倉吉駅より車で約18分
電話／0858-28-3037



●牛ノ戸焼
牛ノ戸焼窯は日本初の新作民藝窯。江戸後期から続く古い民窯で一時不遇なときを過ごしたが、吉田璋也に見出されて復活した、新作民藝窯の象徴的な存在。

[牛ノ戸焼窯]
鳥取県鳥取市河原町牛戸185
アクセス／JR因美線・河原駅より車で約15分
電話／0858-85-0655



山陰いいもの探県隊 隊員

鳥取民芸美術館 常務理事

木谷 清人

きたに きよひと

鳥取市生まれ。昭和50年早稲田大学理工学部建築学科卒業。民藝や建築設計・まちづくり・建築の歴史的調査等にかかわる。今回は山陰の民藝の歴史について詳しくお話を聞きました。



に璋也は、あらゆる分野の職人たちへ、新たな希望を与えていったのです。
昭和7年には、職人たちの手づくり品全てを買い取って販売する全国初の民藝専門店を鳥取市に創業。翌年には、東京に2号店をオープンさせたこの「たくみ工芸店」、宗悦の命名によるものでした。こうして、新作民藝の聖地として語られることの多い鳥取だからこそ、優れた手しごとが絶えることなく大切に受け継がれてきたのでしょうか。
たとえば、県東部では、旧暦の3月3日、災厄を人形に託して川に流し1年間の無病息災を祈願する流し雛など。県中部では、璋也プロデュースの電気スタンドで知られる木工など。県西部では、江戸時代から伝承される弓浜緋など。それぞれに風土や風習、文化や生活にしっかり根ざした手しごとが、今も生き生きと受け継がれて、そして発展しています。

茶の湯の文化にも関連

島根の手しごと

縁結びの出雲大社に、国宝に指定された松江城で知られる島根県は、京都府などに続き全国で4番目に伝統工芸品が多い県だといえます。陶磁器や和紙、織物・染物や郷土玩具などをはじめ、出雲めのう細工や石見神楽面など、いかにも島根らしい手しごとが多く残されているのも特徴です。

島根の手しごとに大きく影響したのは、日本近代工芸の巨匠と讃えられる、島根県安来市出身の陶工・河井寛次郎(1890・1966)。16歳で「日本一の陶工になる」と決意した寛次郎は、東京高等工業学校へ進んで、卒業後、京都市立陶磁器試験場に入場。ここで知り合った濱田庄司(1894・1978)とともに、釉薬の研究に打ち込みました。その後、寛次郎は庄司の仲立ちで宗悦に出会い、3人で民藝運動を推進。そもそも「民藝」とは、この3人によって生み出された新しい言葉で、「民衆の手による工芸品」を略したものだといわれています。

その頃、すでに京都の五条坂に窯を構えていた寛次郎でしたが、郷里の職人たちとの繋がりは深く、折に触れて互いを行き来し、助言や指導を惜しむことはなかったといえます。

たとえば、斐川町の出西窯は、当時まだ、20代の若者たち5人で開いたばかりの新しい窯。どんな焼き物をつくれいいのか迷っていたときに民藝と出会い、同郷の寛次郎に助言を授かって成長。現在、美しい普段づかいの民窯として、若い世代からも支持されています。

さらに、寛次郎らと親交を深めていた出雲和紙の安部榮四郎(1902・1984)は、衰退していく出雲和紙を出雲民芸紙として再生させた立役者。古来の原料と技法を用いて雁皮紙を漉き、国の重要無形文

化財産皮紙保持者(人間国宝)に認定されました。

また、城下町であった松江市は、大名茶人として親しまれた不昧公こと松江7代藩主・松平治郷ゆかりの手しごとも発達しています。趣味人だっ

た不昧公は、お抱え塗師を江戸や輪島へ修業に出して、松江の新しい漆器を開花させたいと考えていました。けれど江戸時代になって、お城の仕事は消滅。そこで立ち上がった職人が海外の技術も取り入れて考案したのが、八雲塗の始まりと伝わります。つかい込むほどに、漆の層の下に描かれた文様が鮮やかにあらわれるという珍しい八雲塗。茶の湯の文化に育まれた華やかさも、松江の手しごとの一面です。

山陰のアイデンティティ 誠実な手しごと

時代に流されず消されず、真摯に残され根付いている手しごと、それは、山陰のアイデンティティともいえるのではないだろうか。

地元の人々が愛着をもって普段づかいすることはもちろん、県外の方々がさらには、海外の方々が、山陰の手しごとに着かれて、日々の暮らしの中で、宝物のようにしてつかっていただいている、なんと誇らしい光景でしょう。

生活の中にひとつ、ふたつあるだけで、どこかやさしい気持ちになれる、そんなあなたかみが、山陰の手しごとの持ち味なのだと思いますのです。



●八雲塗やま本
日本はもとより海外の技法も取り入れて編み出された八雲塗を、島根の伝統産業に育てようと奔走したのが、明治22年(1889)創業、八雲塗やま本の創業者、山本喜三郎。

島根県松江市末次本町45
アクセス/JR松江駅よりバスで5分、大橋北詰下車徒歩1分
電話/0852-23-2525



●出西窯
昭和22年(1947)、斐伊川の畔に地元若者5人で開いた窯。瑠璃色は出西ブルーといわれ人気が高い。焼成は、今ではずいぶん数も少なくなった登り窯と灯油・電気を併用。

島根県出雲市斐川町出西3368
アクセス/JR出雲市駅より車で約15分
電話/0853-72-0239



●安部榮四郎記念館
古来の原料と技法を用いて雁皮紙を漉き、人間国宝に認定された安部榮四郎の記念館。現在、榮四郎の孫になる3代目とその精神と技法を受け継ぎ、民芸紙・雁皮紙を製作。

島根県松江市八雲町東岩坂1754
アクセス/JR松江駅より一畑バスで約30分、八雲車庫下車、町営バスに乗り換え別所下車徒歩2分
電話/0852-54-1745

駅レンタカー営業所のある駅



桜の香りを身近で感じてください。

吾郷 康子さん

想いが込められた
さくら色

島根県雲南市木次町の桜並木は中国地方随一の桜名所。日本さくら名所100選に選ばれた木次の桜は春になると、それは美しい見事な花を咲かせます。この桜の花を手摘みして、輪輪丁寧に干し、塩と梅酢で漬けた「sakura舞」(20g±5.4g)。程よい塩加減で桜の香りがギュッと詰まっております。いつでも春の香りを思い出させてくれます。茶碗蒸しやちらし寿司など、様々な料理に使用でき、見るだけではなく食べてもおいしい桜を楽しんでみてください。匂い袋を桜の花びらの形にした「かおり袋」(一枚±7.0g)。かわいらしいかおり袋の中には独自にブレンドしたお香が入っており、ほのかに漂う優しい桜の香りを身近で感じることが出来ます。お部屋や車、ロッカーの中などに使用したり、インテリアのアクセントとしても楽しむことができます。松江駅のシャミネ(おみやげ楽市)にて取扱。

●木の花工房
島根県雲南市木次町新市320
☎0854・4777087
http://konohana-kobo.jp



山陰らしいもの 探果隊がゆく



今回のグッとくる山陰、春爛漫という言葉がびっぴりの表紙写真。実は山陰いいもの探果隊、柄木隊員の写真です。特急やくも号が田植えの終わった田んぼと、山頂には雪が残る大山を背に、颯爽と走る姿からは、なんだかいいことが始まりそうな予感。グッとくる山陰の読者の皆様、もう大山は見えましたか？またなら是非車を眺めてみてはいかがでしょう。か。で。今回のコラムは昨年11月に入隊していただいたクルック・ファビアン隊員と内山キャプテンです。

U・・・内山キャプテン
K・・・クルック・ファビアン隊員

U 今回ファビアン隊員には、グッとくる山陰の取材に同行してもらいましたがいかがでしたか？

K ありがとうございます！素晴らしい日になりました。出西窯、八雲塗、そして手すき和紙とどれもが気に入りのものばかりでした。

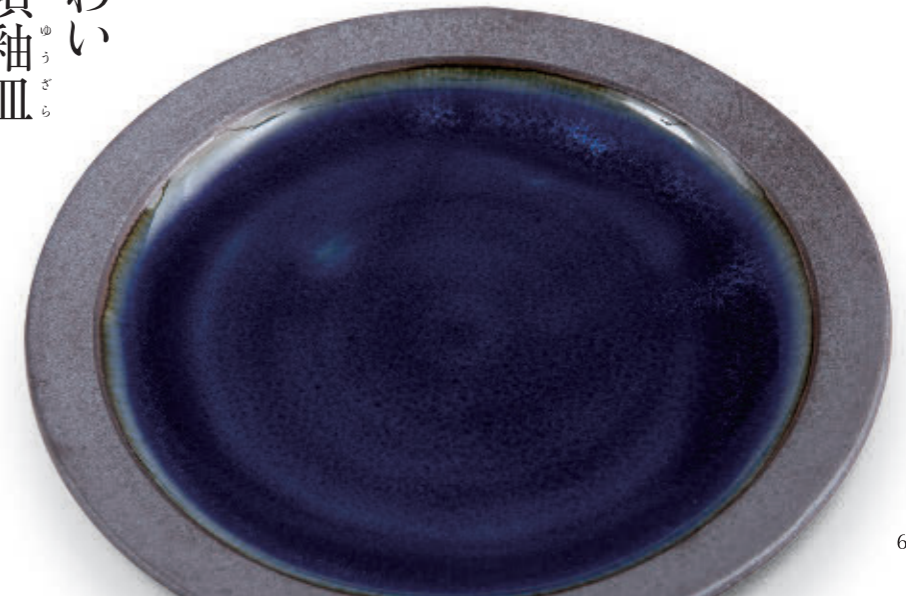
U しかしファビアン隊員の知識の深さはいつも驚かされます。安部楽四郎記念館での和紙の素材、原料、歴史の話や安部様と繰り返してられるファビアン隊員にはびっくりしました！手すき和紙の体験もすごく上手でしたね。

K 安部楽四郎記念館は大好きなので何度も訪れています。フランスをはじめ世界中を探してもあのような素晴らしい紙はないと思います。出雲民芸紙の好きどころは和紙の持ち味を生かしながらも非常に個性が。それは安部楽四郎が「民藝運動」の創始者であった柳宗悦氏に出会ったこと、棟方志功、河井寛次郎をはじめとする、素晴らしい民芸作家とも交友があった、伝統を守りながらも、さらに先鋭を求めていることが分かります。

U 出雲民芸紙への情熱がすごく伝わってきますね。ファビアン隊員は「JUN」[Decouvrez Matsue] (仏語)というWEBサイトを立ち上げて世界へPRされていますね。山陰いいもの探果隊公式ウェブサイトも、3月中旬から英文・仏文サイトがオープンしますよ！

山陰いいもの探果隊は、山陰から世界へ、「いいもの」を発信していきます！
WEBではさらに詳しく、各隊員のプロフィールや探果記、座談会の様子などがご覧いただけます。ぜひ「山陰いいもの」で検索してみてください。

美しき味わい 縁鉄砂呉須釉皿



出雲市斐川町にある出西窯は、地元出雲の原料を使用し、暮らしの道具としてシンプルで美しい形の器やコップを多く作っています。ご紹介するお皿は、フチに鉄砂釉を使用しており、ザラザラとした質感で内側には呉須釉の色合わせが綺麗なお皿です。存在感を持ちつつも、派手に飾らず温かみのある雰囲気演出してくれるそんなお皿です。縁鉄砂呉須釉皿4.5寸(¥1,296)。商品については左記の連絡先までお問い合わせ下さい。

●株式会社 出西窯
島根県出雲市斐川町出西33088
☎0853・7202309
http://www.shussai.jp



食卓に置きたくなるお皿です。



※手作りの一品ものにつき、商品は写真と異なる場合があります。

手作り和紙の 名刺入れ



斐伊川の清流から生まれる上質な原料の特性を活かし、一枚一枚丁寧に漉き上げ、板干した木目が特徴的な斐伊川和紙(雲南市三刀屋町)。江戸時代末期の創業以来、伝統を受け継ぎ美しい和紙を作り続けています。その和紙で作られた「名刺入れ」(1つ±2,160)は使い心地もよく、持っているだけで独特な雰囲気演出してくれます。名刺入れとして、また大事なカード入れとしても使用でき、自分へのプレゼントにいかがでしょうか。松江駅のシャミネ(おみやげ楽市)にて取扱。

●斐伊川和紙
島根県雲南市三刀屋町上熊谷302
☎0854・4530806



一つとして同じものはありません！



左記マークのついた商品につきましてはJR駅構内の店舗などで取り扱っております。
※掲載商品の金額はすべて税込表示です。

出かけたくなる季節だから

山陰へー

春を探しに

八雲塗という温かみ



松江に伝承された代表的な伝統工芸の一つに八雲塗があります。その伝統技法で上品に仕上げられた手鏡「桶田姫鏡(勾玉兎柄)」(1個¥1,620)。大黒様と縁が深い兎と縁結びの出すを代表するパワーストーンの勾玉の絵柄が素敵な人気の手鏡です。軽くしてとりと手になじむ八雲塗の箸「夫婦箸」(2膳入り¥1,080)。使用する度に感じる優しい口当たりは食事をさらに美味しくさせ、食卓に円満な時間を運んでくれるでしょう。ご夫婦やカップル、友人への結婚祝いなどにおすすめです。二つが二つに繋がるまさに縁結びをイメージした箸置「さくらんぼ縁結び箸置」(2個セット¥1,080)。置いてあるだけでも可愛らしく、箸置以外にお好みの紐を付けて、ストラップとしても使用できます。日常生活で身近に八雲塗を楽しんでいたただけるアイテムになっており、記念品やお祝い返しにいかがでしょうか。松江駅のシャミネ(おみやげ楽市)にて取扱。

山本 成さん



八雲塗の良さを体験してください！

●山本漆器店
島根県松江市木次町45
☎0852・2222222
http://www.yakumonutrip/

